

(第一紙) T12p184b19～

- 1 「 」子
- 2 「 」身識中求身身
- 3 「 」身則無有大藥復白仏言
- 4 「 」可壞識止於危脆速朽身
- 5 「 」人得如意宝以宝力故
- 6 「 」林鬱茂花菓敷榮象
- 7 「 」自然而至其人於後失如
- 8 「 」悉銷滅如意神宝堅固貞
- 9 「 」壞所生資用虛假無常
- 10 「 」堅固不壞所生之身速
- 11 「 」尊柔妙之識云何穿入甌
- 12 「 」水体至柔激流懸泉能穿

(第二紙) T12p184c01～

- 1 山石於意云何□石之質漚如何大藥言
- 2 世尊石質堅韌猶□金剛水質柔漚為諸樂
- 3 触大藥識亦如是至妙至柔能穿剛韌大身
- 4 之色遷入受報大藥復白仏言世尊衆生捨
- 5 身云何生諸天中乃至云何生於地獄等中
- 6 仏言大藥衆生臨終之時福業資者弃本之
- 7 視得天妙視以天妙視見六欲天爰及六趣
- 8 見身揺動見天宮殿及歡喜園雜花園等又
- 9 見諸天処蓮華殿麗妓侍繞笑謔嬉戲衆花
- 10 飾耳服僑奢耶臂印環釧種種莊嚴花常開
- 11 敷衆具備設見天天女心便染恋歡喜適意
- 12 姿顔舒悅面若蓮華視不錯乱鼻不虧曲口
- 13 氣不臭目色明鮮如青蓮葉身諸節際無有
- 14 苦痛眼耳鼻口又無血出不失大小便利不
- 15 毛驚孔現掌不死黄甲不青黒手足不乱亦

1 菓果【大】 大正蔵に校注なし。  
 2 貞真【大】 大正蔵に校注なし。  
 3 漚軟【大】 大正蔵に校注なし。  
 4 漚軟【大】 大正蔵の校注には「軟漚」とある。  
 5 弃棄【大】 大正蔵に校注なし。  
 6 華花【大】 大正蔵に校注なし。  
 7 繞邊【大】 大正蔵に校注なし。  
 8 華花【大】 大正蔵に校注なし。

- 16 不捲<sup>9</sup>縮好相顯現見虛空中有高大殿彩柱
- 17 百千彫麗列布垂諸鈴網和風吹拂清音悅
- 18 美種種香花<sup>11</sup>莊嚴寶殿諸天童子衆寶嚴身
- 19 遊戲殿內見已歡喜微笑齒現如君<sup>10</sup>花目不<sup>11</sup>
- 20 不張開亦不合閉語音和潤身不極冷亦不
- 21 極熱親屬圍繞<sup>12</sup>亦不憂苦日初出時當捨其
- 22 寿所見明白無諸黑闇異香芬馥四方而至
- 23 見仏尊儀歡喜敬重見已親愛歡喜<sup>13</sup>辭猶
- 24 如暫行便即旋返安慰親知不令憂惱有流
- 25 法爾生必當死勿以分別而生苦惱大藥善

(第二紙) T12p184c26~

- 1 善<sup>14</sup>之人臨命終時好樂布施種種伽他種種
- 2 頌歎種種明因<sup>15</sup>重重<sup>16</sup>稱說正法之教如睡不
- 3 睡安隱捨寿將捨寿時天父天母<sup>17</sup>同止一座
- 4 天母手中自然花出天母見花顧謂天父甚
- 5 為福吉希奇勝果天今當知子慶之歡時將
- 6 不久天母遂以兩手搖弄其花弄花之時命
- 7 便終盡無相之識<sup>18</sup>捨諸根持諸境界<sup>19</sup>捨
- 8 諸界持諸界事遷受異報猶如乘馬<sup>20</sup>一乘
- 9 一如日愛引光如木生火又如月影現澄清
- 10 水識資善業遷受天報如脉<sup>21</sup>風移速託花內
- 11 天父天母<sup>22</sup>同座視之甘露欲風吹花七日宝
- 12 璫嚴身曜動炫燠天童朗潔現天母<sup>23</sup>手大藥
- 13 白仏言世尊無形之識云何假因緣力而生

9 捲＝卷【大】

10 畱＝圖【大】 大正蔵に校注なし。

11 「不」一【大】 大正蔵に校注なし。

12 繞＝邊【大】 大正蔵に校注なし。

13 雜＝離【大】

14 善＝業【大】 大正蔵に校注なし。

15 因＝白【大】 大正蔵に校注なし。

16 重重＝種種【大】

17 「母」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「母」(朱書)あり。

18 弃＝棄【大】 大正蔵に校注なし。

19 弃＝棄【大】 大正蔵に校注なし。

20 弃＝棄【大】 大正蔵に校注なし。

21 脉＝脈【大】 大正蔵に校注なし。

22 「母」の右傍に「母」(朱書)あり。

23 「母」の右傍に「母」(朱書)あり。

14 有形云何有形止因緣內仏言大藥如木和  
15 合相觸生火此火木中求不可得若除於木  
16 亦不得火因緣和合而生於火因緣不具火  
17 即不生木等之中尋火色相竟不可見然咸  
18 見火從木中出如是大藥識假父母因緣和  
19 合生有形身有形身中求識不得離有形身  
20 亦無有識大藥如火未出火相不現亦無暖  
21 觸諸相皆無如是大藥若未有身識受想行  
22 皆悉不現大藥如見日輪光明照耀而諸凡  
23 夫不見日体是黒是白黃白黃赤皆不能知  
24 但以照熱光明出沒環運諸作用事而知有  
25 日識亦如是以諸作用而知有識大藥白仏

(第四紙) T12p185a22~

1 言云何為識作用仏言大藥受覺想行思憂  
2 苦惱此為識之作用復有善不善業薰習ニ習為  
3 種作用頭識大藥白仏言云何識離於身便  
4 速受身識捨捨故身新身未受當爾之時識作  
5 何相仏言大藥如有丈夫長臂勇健着堅甲  
6 胄馬疾如風乘以入陣干戈既交心乱墜馬  
7 武芸捷習還即跳上識棄於身速即受身亦  
8 復如是又如怯人見敵怖懼乘馬退走識資  
9 善業見天父母同座而坐速託生彼亦復如  
10 是大藥如汝所問識棄故身新身未受當爾  
11 之時識作何相大藥譬如人影現於水中無  
12 質可取手足面目及諸形狀与人不異体質  
13 事業影中皆無無冷無熱及与諸觸亦無疲  
14 乏肉段諸大無言声声苦樂之声識棄故  
15 身新身未受相亦如是大藥是資善業生諸  
16 天者  
17 大藥白仏言云何識生地獄仏言大藥行惡  
18 業者入於地獄汝當諦聽大藥此中衆生積  
19 不善根命終之時作如是念我今於此身死  
20 棄捨父母親知所愛甚大憂苦見諸地獄及  
21 見己身応合入者見足在上頭倒向下又見

<sup>24</sup> 薰ニ熏【大】 大正藏に校注なし。

- 22 一処地純是血見此血已心有味着縁味着
- 23 心便生地獄腐敗惡水臭穢因力識託其中
- 24 譬如糞<sup>55</sup>穢臭<sup>55</sup>臭<sup>55</sup>臭<sup>55</sup>臭<sup>55</sup>臭<sup>55</sup>酒諸臭<sup>55</sup>因力蟲生其
- 25 中入地獄者託臭物生亦復如是賢護勝上

(第五紙) T12p185b17~

- 1 童真合掌白仏言地獄衆生作何色相身復
- 2 云何仏言大藥其愛血地生地獄者遍身血
- 3 光身如血色生湯隍者身如黑雲生乳湯河
- 4 者身点斑雜作種種色体極<sup>55</sup>湲<sup>55</sup>脆猶如貴樂
- 5 櫻孩之身其身長大過八肘量鬚髮身毛並
- 6 長垂曳手足面目虧曲不全閻浮提人遙見
- 7 便死大藥白仏言地獄衆生以何為食仏言
- 8 大藥地獄衆生食無少樂惶懼馳走遙見鎔
- 9 銅赤汁意謂是血衆奔趣之又有声呼諸有
- 10 飢者可速來食便走向彼至已而住以手承
- 11 口獄卒以熱銅汁写手掬中逼之令飲銅汁
- 12 入腹骨節爆<sup>55</sup>裂<sup>55</sup>举身火起大藥地獄衆生所
- 13 食之物唯增苦痛無少安樂地獄衆生苦痛
- 14 如是識不捨之亦不毀壞身如骨聚識止不
- 15 離非業報盡苦身不捨飢渴苦逼便見園林
- 16 花<sup>55</sup>菓<sup>55</sup>敷<sup>55</sup>榮<sup>55</sup>広博翠茂見已喜笑互相謂言此
- 17 園翠茂清風涼美衆急入園須臾暫樂樹菓
- 18 花<sup>55</sup>菓<sup>55</sup>咸成刀<sup>55</sup>劔<sup>55</sup>斬截罪者或中破身分為兩
- 19 段或大叫呼四面馳走獄卒群起執金剛棒
- 20 或執鐵棒鐵斧鐵<sup>55</sup>枝<sup>55</sup>齧<sup>55</sup>脣瞋怒身出火焰斫
- 21 棒罪者遮不令出斯皆已業見如是事獄卒
- 22 隨罪者後語罪者云汝何処去汝可住此勿
- 23 復東西欲何逃竄今此園者汝業莊嚴可得
- 24 離不如是大藥地獄衆生受種種苦七日而

25 「糞？」の中央に見せ消ち（朱点）あり、右傍に「糞」（朱書）あり。

26 湲<sup>55</sup>軟<sup>55</sup>【大】 大正蔵に校注なし。

27 裂<sup>55</sup>裂<sup>55</sup>【大】 大正蔵に校注なし。「裂」の中央に見せ消ち（朱点）あり、右傍に「烈」（朱書）あり。

28 菓<sup>55</sup>菓<sup>55</sup>【大】 大正蔵に校注なし。

29 菓<sup>55</sup>菓<sup>55</sup>【大】 大正蔵に校注なし。

30 劔<sup>55</sup>劔<sup>55</sup>【大】 大正蔵に校注なし。

31 枝<sup>55</sup>杖<sup>55</sup>【大】 大正蔵に校注なし。「枝」の中央に見せ消ち（朱点）あり、右傍に「杖」（朱書）あり。

32 齧<sup>55</sup>齧<sup>55</sup>【大】 大正蔵に校注なし。

25 死還生地獄以業力故如遊蜂採花還歸本

(第六紙) T12p185c13~

- 1 処罪業衆生応入地獄初死之時見死使來
- 2 繫項𧯛逼身心大苦入大黒闇如被劫賊執
- 3 捉將去作如是言訶禍苦哉我今棄闇
- 4 浮提種種愛好親属知友入於地獄我今不
- 5 見天路但見苦事如𧯛作絲自纏取死我自
- 6 作罪為業纏縛縑索繫項𧯛曳𧯛逼將入地
- 7 獄賢護罪業衆生入地獄者苦相如是爾時
- 8 賢護与大葉王子聞說是已身驚毛豎俱起
- 9 合掌作如是言我等今者俱歸依仏請垂救
- 10 護願今以此聞法功德未脱有流処生死輪
- 11 不落三塗入於地獄賢護復白仏言欲有𧯛請
- 12 問𧯛唯願聽許仏言如汝憐望恣汝所問賢護
- 13 白仏言世尊云何為積云何為聚云何為陰
- 14 云何為身不遷仏言賢護智界見界意界無𧯛明
- 15 界以此四界和合成身四境界識名之為積
- 16 聚謂六界六入六入境三界因二入因即𧯛
- 17 𧯛毛爪皮肉膿血涕唾黃淡脂髓液手足
- 18 面目大小支節和合崇聚名之為聚猶如穀
- 19 豆麻麦積集聚貯而成高大謂之為聚其地
- 20 水火風空識名為六眼界耳鼻舌身意名為
- 21 六入色声香味触法名六入境即貪瞋癡名
- 22 三界因又風黃淡亦名三因二入因者謂戒
- 23 与信又有二因謂捨与施又有二因謂進与
- 24 定又有二因謂善不善其受想行識此四名

(第七紙) T12p186a08~

<sup>33</sup> 𧯛𧯛 大正蔵に校注なし。  
<sup>34</sup> 𧯛𧯛 大正蔵に校注なし。  
<sup>35</sup> 「牽?」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「牽」(朱書)あり。  
<sup>36</sup> 𧯛𧯛 大正蔵に校注なし。  
<sup>37</sup> (所) + (大)  
<sup>38</sup> (問) - (大) 大正蔵に校注なし。  
<sup>39</sup> (無) - (大)  
<sup>40</sup> 髮𧯛 大正蔵の校注には「痰𧯛淡𧯛〔聖〕\*」とある。  
<sup>41</sup> 痰𧯛淡𧯛 大正蔵の校注には「痰𧯛淡𧯛〔聖〕\*」とある。  
<sup>42</sup> 痰𧯛淡𧯛

- 1 無色陰受謂領受苦樂等相及不苦不樂之
- 2 相想謂知苦樂相行謂現念作意及觸識者
- 3 是身之主遍行諸体身有所為莫不由識不
- 4 遷者謂身語意淨證獲道果此人死已識棄
- 5 有陰不重受有不流諸趣極樂而遷不復重
- 6 遷是名不遷於是賢護与大藥王子礼仏雙
- 7 足白言世尊仏一切智説此法聚当於未來
- 8 作大利益安樂衆生仏言如來法聚常住非
- 9 **新**一切智者知而不為我經無量**勲**苦積集
- 10 智光今説此經此正法**日**為諸衆生作大明
- 11 照德普流一切智海為能調心流注者説
- 12 此經所在之處**誦**誦解説諸天鬼神阿修羅
- 13 摩睺羅伽咸擁護皆來拜礼水火王賊等
- 14 怖皆不能害諸比丘從今已往於不信前勿
- 15 説此經求經過者慎勿示之於**尼**子**尼**也**軋**
- 16 部衆諸外道中亦勿説之不恭敬渴請亦勿
- 17 為説若違**我**虧損法事此人則為虧損如
- 18 來諸比丘若有礼拝供養此經典者应当恭
- 19 敬供養是人**斯**人則為持如來藏爾時世尊
- 20 而説偈言
- 21 当勇超塵累 **勲**脩**仏**正教 除滅死軍衆 如象踐葦蘆
- 22 持法奉禁戒 專精勿虧怠 以棄生流轉 盡諸苦有辺
- 23 仏説此經已賢護勝上童真大藥王子并諸
- 24 比丘菩薩摩訶薩天人阿修羅**軋**闍婆等普

(第八紙) T12p186b05~

- 1 大会衆聞仏所説歡喜奉行
- 2

43 新**断**【大】 大正蔵に校注なし。「新」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「断」(朱書)あり。

44 勲**勤**【大】 大正蔵に校注なし。

45 日**日**【大】 大正蔵に校注なし。

46 誦**請**【大】 大正蔵に校注なし。

47 尼**尼**【大】 大正蔵に校注なし。「尼」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「尼」(朱書)あり。

48 軋**乾**【大】 大正蔵に校注なし。

49 尼**尼**【大】 大正蔵に校注なし。「尼」の中央に見せ消ち(朱点)あり、右傍に「尼」(朱書)あり。

50 軋**乾**【大】 大正蔵に校注なし。

51 敬**教**【大】 大正蔵に校注なし。

52 勲**勤**【大】 大正蔵に校注なし。

53 軋**乾**【大】 大正蔵に校注なし。

3 大乘頭識經卷下<sup>54</sup>

4 右大唐永隆元年三藏地婆訶羅於東太原  
寺記出大周錄

5 皇后藤原氏光明子奉為

6 尊孝贈正一位太政大臣府君

7 尊妣贈從一位橘氏大夫人敬

8 写一切經論及律莊嚴既了伏

9 願憑斯勝因奉資冥助永庇

10 菩提之樹長遊般若之津又願

11 上奉 聖朝恒延福寿下及

12 寮采共盡忠節又光明子自發

(第九紙)

1 誓言弘濟沈淪勤除煩障妙窮

2 諸法早契菩提乃至伝灯無窮

3 流布天下聞名持卷獲福消災

4 一切迷方会帰覺路

天平十二年五月一日記

(後補軸付紙)

大正六年十月修理之

帝室博物館総長股野 琢 (花押)

董事奈良帝室博物館長久保田鼎 (花押)

<sup>54</sup> 尾題部分に印記あり。